

建国200周年記念行事「科学技術博覧会」

在アルゼンチン日本国大使館

建国200周年記念行事として「科学技術博覧会(仮称:テクノポリス)」が開催されることとなり、亜大統領府から石田大使に対し、科学技術先進国である我が国の協力を得たいとの依頼がありました。当館としては、本展示会が我が国の高い科学技術水準を披露する好機であり、今後の日亜間の協力関係が更に広がる契機となり得ると考えるところ、当地日系企業におかれまして、是非積極的な参加をご検討いただきたく存じます。本展示会の主催者である科学技術省は、できるだけ早く具体的な出展プロポーザルを出してほしいと考えているところ、まずは、出展希望の有無につき(可能であれば、出展物やそのイメージ、出展を希望する街区、必要な展示スペースの広さ等も併せて)、9月3日(金)までに当館あてお知らせください。(担当:山崎,馬場)

なお、科学技術省から聴取したところ、概要は下記のとおりでしたので、参考になれば幸いです。(詳細情報が未着のため今後変更の可能性はあり得ます。)

記

1. 目的

国の発展のために果たしてきた科学技術の過去200年間の歩みとその将来の姿を広く国民に認識してもらうことが主眼。(亜政府によれば、国民へのサプライズとしたいと考えており、会場設営は20日前から開始し、プレス発表は1週間前に初めて行う予定、本件情報の取り扱いにはくれぐれも注意願いたいとのこと。)

2. 時期

2010年11月19日～28日

3. 場所

カナルシエテ(国営放送局)、国立美術館や国立図書館の建物の一部、ブエノスアイレス大学法学部の駐車場、国連広場(チューリップのモニュメントのある広場)などを想定。屋外においても、一部はテントなど屋根を設けて実施する。テントを含む屋内スペースだけで計7万平米となる予定。

4. 会場デザイン

(1)芸術と科学技術が融合した展示会とする。会場全体を一つの都市と見立て、5つの街区を設けて、各テーマ(火,土,水,空気(aire),イノベーション)を割り当て、会場

設計を行う。国・企業・機関毎にスタンドを出すというのではなく、5つのテーマ(街区)毎に、色々な国・機関の出展物が並ぶというイメージである。もちろん、各出展物には、企業・機関名などが明記される。

(2)展示会のアクティビティとして、ノーベル賞受賞者のプレゼンや、亜国人及び外国人によるワークショップ・パネルディスカッションなども考えている。また、舞台を設け、芸術公演(テクノロジーアートや舞踊にテクノロジーを加えた様な演目を想定)も行う予定。

(3)各街区に子供向けスペースを設け、子供達が科学を知る場とする。(全国の高校最上級生を同イベントに連れてくる計画もある。)

5. 出展物

(1)出展物は、その内容により各エリアに割り振られる。例えば、「空気」であれば衛星・ソーラーエネルギー・ロケット、「水」であれば燃料電池・水力発電・水利用・船、「火」であればエネルギー・金属、「イノベーション」であればロボット・バイテク・ナノテク等など。

(2)建材や照明器具などで革新的なものがあれば、パビリオンの建材として参加することも可能であるし、日本の象徴的な技術ではなく、亜と何か協力して実施していること(例えば、亜が日本方式を採用したこともあり、デジタルテレビ放送関連のものや、日本の企業が亜で生産・販売している自動車など)の展示でも可。

(3)日本の科学技術のスピリッツを体現するような技術の展示に期待。子供を始め、見学者が参加できるような形の展示(目新しいもの、見栄えするもの、実際に手に触れることができるもの、インタラクティブなもの)が望ましい。(イメージとしては、音声・映像・レーザーを駆使するようなものやロボットなど。)

6. 費用等

(1)出展の主体が民間企業であれ、公的機関であれ、(当館を通じた出展プロポーザルについて、)出展料は無料とする。ただし、スペースに何か設置する場合は、設置に係る費用は設置者の負担となる。

(2)亜当局は、展示物を持ち込む際の税関手続の円滑化を行う。ただし、免税措置については、具体的な出展プロポーザルを見る必要がある。

(3)先着順ではあるが、既存インフラを使う分には、追加費用はかからない。例えば、ソーラーカーや車椅子が通る道は造るので、乗り物関係はそこを使い、ロゴを示して展示すればよい。ロボット用スペースも作る。ビデオゲームについても、専用スペースを用意するので、関係企業はそこを利用すればよい。

(以上)